

## 建築・都市デザイン

### 門司港地区の総合的まちづくり計画および設計

門司港レトロの都市環境デザイン／旧門司税関保存活用・改修／旧大連航路上屋保存活用・改修／門司麦酒煉瓦館保存活用・改修

### 横浜における一連の建築・都市デザイン関連業務

神奈川県立芸術劇場・NHK横浜新放送会館設計および都市デザイン調整／横浜税関本関庁舎設計

### 新潟駅駅舎・駅前広場

新潟駅駅舎・駅前広場設計(南口広場・万代広場)

### 東御市行政中心ゾーン(舞台が丘地区)リノベーション計画

舞台が丘構想・市庁舎改修・新図書館・中央公民館等設計

### <コラム>

浜寺公園駅駅舎及び駅前交通広場等計画提案競技  
すだれの家／液状化被災地域の復旧・支援

# 門司港地区の総合的まちづくり計画および設計

## ■門司港レトロの都市環境デザイン

[北九州市] 1989-2014

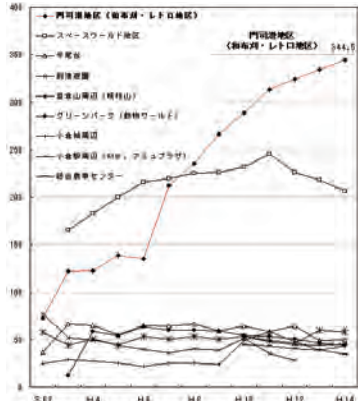
かつて九州随一の繁栄を誇った海峡の町・門司港、明治、大正、昭和初期の洋風建築の多くが解体の危機に瀕していた。歴史的遺産を活かした地域再生のための様々な街づくり事業が始まったのが昭和の末、「レトロ」はその願いを込めたキーワードであった。アプルは門司港の都市環境デザインに計画初期段階から関わり続け、全体のマスターデザイン、広場・街路や水辺のプロムナード・はな橋、駐車場、旧門司税関などの歴史的建物の保存修復、街角の小建築物等の設計およびデザイン監理および夜間景観整備にかかる設計協力(石井幹子デザイン事務所)、門司港地区都市再生整備計画など四半世紀の間、関わり続けてきた。



門司港ハイマートより第一船溜まりを見る



門司港第一船だまり沿いプロムナード



北九州市内観光客推移



門司港駅前レトロ広場でのフリーマーケット風景



門司港レトロ地区中心部  
(黄色部がアプル総合計画事務所設計関与部分)

経緯 マスタープラン・都市計画：レトロ地区設計(その1)'89.8～'90.3 / 門司港レトロ事業駐車場整備基本構想 '94.4～'10 / 門司港レトロ地区サイン計画設計 '94.7～'12 / 門司港・和布刈地域振興基本計画 '96.5～'11 / 門司港レトロ第2期計画実施計画 '98.1～'3 / 門司港レトロ歴史的建造物活用計画 '99.2～'3 / 海峡びゅうロード基本計画 '99.8～'12 / 海峡びゅうロードサイクリングステーション基本計画他 '00.12～'01.3 / 西海岸地区港湾関連用地等活用検討 '03.11～'04.3 / 門司港地区都市再生調査 '03.12～'04.3 / 門司港地区まちづくり総合支援のための基本計画 '04.1～'3 / 旧大連航路上屋の事業化調査 '04.12～'05.3 / 北九州港門司港地区臨海部再編調査に関する補助作業 '06.8～'07.3 / 門司港レトロ観光・港湾施設の指定管理者検討会(委員長:中野)'12.9～'10



船だまりからはね橋・旧門司税関を望む



第一船溜まり沿いプロムナードと門司港ホテル、ハイマート



コンクリート照明柱（グッドデザイン景観賞 1991\*）



門司駅前広場（レトロ広場の日常一噴水時）



レトロ広場のイベント風景（フリーマーケット）

諸元 事業主体：北九州市（建設局、港湾局、建築局、企画局、都市計画局、経済局） 所在地：北九州市門司区 工事期間：'89～'14  
 担当：中野、萩原、松村、小野寺、重山、浦岡、関本、吉田、金光、岩村、熊耳、星野 協力：\*照明デザイン-ナグモデザイン、詳細設計-巧建総合設計ほか



門司港レトロ鳥瞰バス



ウォーターフロント公園（港湾緑地 A）から関門海峡側を望む



港湾緑地 D、はね橋・税関脇のボードデッキ



ウォーターフロント公園（港湾緑地 B）内でのカフェ営業の店舗（港湾法に基づく占用許可）



親水広場（港湾緑地C）と歩車道石畳のプロムナード、旧門司税関、はな橋



親水広場（港湾緑地C）の即席プールで遊ぶ子供たち



赤レンガ旧村本倉庫外壁を残したレトロ駐車場、左は内側、右は外部



第1船溜まり夜間景観整備事業設計（照明デザイン：石井幹子デザイン事務所）の竣工パンフレットより

経緯 屋外環境デザイン：環境西海岸緑地設計'89.11～'90.1／環境西海岸緑地基本設計'90.4～'91.2／環境西海岸緑地B及びC設計'90.9～'11／門司港レトロ事業実施設計'91.7～'12／門司港レトロ事業東港町1号線測量設計'92.6～'9／門司港レトロ事業デザイン管理'92.7～'93.3／門司港レトロ事業東港町2号線他実施設計'93.8～'94.1／門司港環境西海岸緑地(D)(E)設計'94.2～'3／一般国道3号（清滝広市）道路詳細設計及び調査／榎福山コンサルタント'94.8～'95.3／東港町1号線外（外構構造物）測量設計'95.1～'3／海峡ビル跡地整備基本計画'95.1～'3／環境西海岸緑地外1件設計'95.10～'96.2／国道3号簡易バ-ック整備調査設計／日本工営'96.2～'3／新浜地区改良検討'96.7～'9／環境西海岸緑地外設計'97.1～'3／環境西海岸緑地外設計その2'97.11～'98.3／一般国道3号簡易バ-ック出入口施設設計'98.2～'3／西海岸緑地樹木設計'98.8～'9／一般国道3号「門司港休憩所」他1線景観設計'98.11～'12／西海岸景観整備設計'99.5～'8／東港町1号線測量設計'01.12～'02.3／橋梁設計：改修西海岸（連絡橋）詳細設計協力：㈱日本港湾コンサルタント'91.1～'3／海峡びゅうロード基本計画'99.8～'12／第1船溜まり夜間景観整備事業設計（石井幹子デザイン事務所）'00.9～'01.3／海峡びゅうロードサイクリングステーション基本計画他'00.12～'01.3／港町4号線商業施設整備'01.9～'02.3／イベントホール整備に係る基礎調査'01.11～'02.3

1912(明治45)年築の旧門司税関は1927(昭和2)年の新たな税関施設完成後、民間倉庫会社となり、1960年代以降は半ば廃屋状態となっていた。その後、現地調査から、明治期の大蔵省臨時建築部(妻木黄穎監修)の設計と判明、保存修復を市は決定、民間から買戻し、港湾緑地休憩所として活用することとなった。アプルは構造調査から保存工法、復元活用検討、基本・実施設計・監理までを5か年にわたって担当した。工法検討に際しては委員会を設置(座長:片野博・九州芸術工科大学教授-当時)、赤レンガの両翼の復元を決定し、2か年の改修工事を経て1994年に竣工。

改修から20年近く経た2013年、レンガの目地部の劣化やひび割れ等補修、設備改修を行うこととなり、調査および設計監理を担当した。



改修前の状況(1980年代)



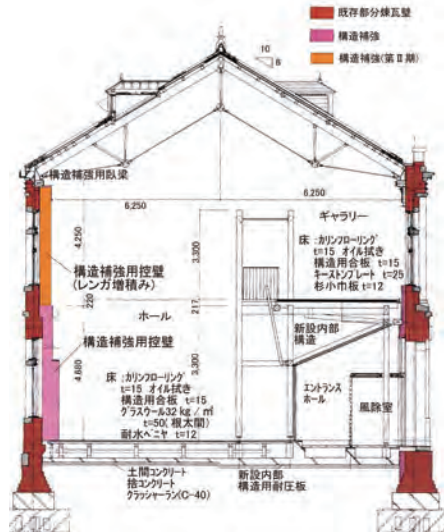
改修後の両翼が復元された第一船溜り側ファサード



改修後の内部空間



再改修後の内部ホール空間



再改修後 断面図

経緯 旧門司税関保存工法検討委託'91.11～'92.3 / 旧門司税関修復保存基本実施設計'92.3～'93.9 / 旧門司税関補修工事監理(第1期)'92.12～'93.1 / 旧門司税関改修工事監理(第2期)'93.6～'94.10 / 旧門司税関改修工事実施設計(再改修)'13.8～'13.11 / 旧門司税関改修工事監理(再改修)'13.12～'14.3

諸元 発注:北九州市港湾局・建築局、構造階数:組石造(レガ-既存部,復元部)地上2階,塔屋1階,一部木造・RC造(新設内部架構) 延床面積:897.90㎡ 主要用途:休憩所 原設計:大蔵省臨時建築部 設計協力:保存工法検討委員会(座長-片野博・九州芸術工科大学教授),材料試験・調査-清水建設、診断・構造設計-TIS&PARTNERS,設備設計-新日本設備計画,家具-7'717I(藤江和子) 施工:山田組(第1期),清水建設(第2期),拓進建設(再改修)

担当:萩原・清水、武藤、浦岡、吉田(本作品は、大野秀敏氏との共同作品)

## ■旧大連航路上屋保存活用・改修

[北九州市] 2004-2008

旧大連航路上屋の保存活用計画が動き出したのが1998年、建築学会九州支部の調査により大熊喜邦の作と判明、保存活用が提案された。2003年よりアブルが検討作業を依頼され、①土地・建物は国施設とし、港湾緑地内の港湾関連施設、②建築の歴史的価値を尊重、可能な限り意匠と空間構成の復元、③市民開放を積極的に進め、賑わい・憩いに寄与する建物に転換を提案し、展望休憩所やイベント施設、研修施設、としての活用が承認された。

2007年より調査設計が始まり、建物構造調査及び改修設計を担当した。しかし事業費面で設計が中断、その後2010年度より東畑建築事務所によって大幅な事業費圧縮方策も含めた実施設計完了、2013年に改修工事が竣工した。



改修された大連航路上屋の東側正面玄関



改修された大連航路上屋の1階展示ホール



改修された大連航路上屋の2階イベントホール



改修された2階屋外通路

経緯 西海岸地区港湾関連用地等活用検討調査'03.11～'04.3 / 門司港地区まちづくり総合支援基本計画'04.1～'04.3 / 旧大連航路上屋事業化調査'04.12～'05.3 / (仮称)西海岸1号上屋(旧大連航路上屋)改修工事基本・実施設計'06.8～'08.3

諸元 発注:北九州市 構造:主体構造-RC造 階数:平屋一部2階建て、建築面積:3983.26㎡、延床面積:4941.48㎡、建築年:1929(昭和4)年、改修年:2013(平成25)年、原設計:大蔵省営繕管財局(大熊喜邦)、原施工:大倉土木㈱、用途:事務所・倉庫 改修用途:集会場 設計協力:構造:TIS&Partners 設備:新日本設備計画、改修実施設計:東畑建築事務所 担当:中野、萩原、松尾、加藤、柴田

## ■門司麦酒煉瓦館保存活用・改修

[サッポロビール(株)・恵比寿ガーデンプレイス(株)] 2003-2005

サッポロビール旧九州工場の移転に伴い、大正以来この地でビール製造の歴史を後世に残すため、鉦宰レンガ積みの本事務所をビール会社がビール資料館として整備し、北九州市に寄贈した。プロポーザルを経てアブルが特定され、保存修復とミュージアムへの活用のための設計監理を担当した。保存・改修工事にあたっては、耐震改修促進法に基づき、(財)日本建築防災協会により耐震診断と耐震補強工事の評価を得ている。既存の鉦宰レンガ躯体のエポキシ樹脂による補修と補強を行い、建物全体の外観については竣工当初の姿への復元に努め、中央の階段室やマンツルピース、天井に残る金属パネル等、歴史的意匠として価値の高い装飾は極力保存した。竣工後、市に引き渡され、「北九州市門司麦酒記念館(帝国麦酒門司工場事務所)」と命名された。



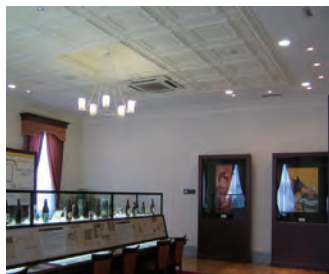
門司麦酒煉瓦館と醸造棟の外観



修復された外観



醸造棟との棟間広場のカフェ門司



麦酒煉瓦館の2階展示スペース

経緯 サッポロビール旧九州工場本事務所記念施設設計者選定プロポーザル'02.6 / サッポロビール旧九州工場本事務所記念施設調査設計監理'02.7～'05.3 所在地:北九州市門司区 構造:主体構造-組構造(鉦宰レンガ化粧積み)、屋根-鉄骨造 階数:地上2階、建築面積:231.91㎡ 延床面積:468.29㎡ 目的:用途変更 大規模な模様替(主要構造の耐震補強工事) 協力 構造:TIS&Partners 設備:新日本設備計画 担当 萩原、吉田、萩尾、江口、松尾、矢島

## 横浜における一連の建築・都市デザイン関連業務

■神奈川県立芸術劇場・NHK横浜放送会館設計および都市デザイン調整

[UR都市機構神奈川地域支社] 2006-2010

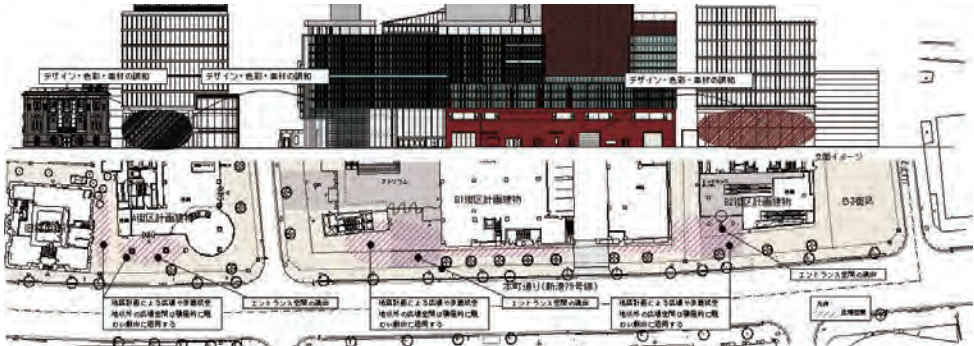
神奈川県立芸術劇場 (KAAT) と NHK 横浜放送会館の複合施設の設計、及び都市デザイン業務について公募がおこなわれ、応募件数 18 件の中から「香山・アプル総合・アプルデザイン設計共同体 (以下香山アプルJV)」が設計者に選定された。

### ■都市デザイン調整

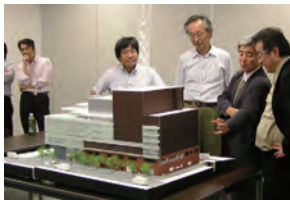
アプルは主に都市デザイン担当として、B1 街区に隣接する A・B 2 街区施設も含む、事業主体関係者 (香山アプルJV、神奈川県、NHK、A・B2 街区の民間事業者、都市機構) を一堂に会したデザイン調整部会 (座長：中野恒明) を運営し、街区に跨るデザイン指針を策定し、各部デザイン詳細や管理運営に至るまでの調整を含み、最終的なデザインガイドラインとしてまとめ上げた。デザイン指針の実施については、学識経験者 (北沢猛東京大学教授、北山恒横浜国立大学教授)、および横浜市都市デザイン室との協議も行った。



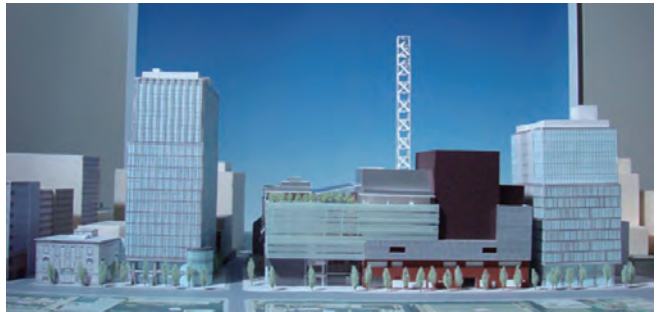
KAAT 神奈川芸術劇場/NHK 横浜放送局



横浜山下町地区デザイン計画より



デザイン調整会議でのコマ



景観検討模型



照明デザインのデザイン調整シートの例 (LPA 作成)



各街区の建築模型を持ち寄り、相互のデザインについて議論する、ベース模型はアプルが担当

経緯 横浜山下町地区 B 1 街区施設建築物設計業務設計者選定公募型プロポーザル '06.3 / 横浜山下町地区 B1 街区施設建築物設計業務 '06.3 ~ 12 (JV) / 横浜山下町地区 B1 街区施設建築物変更設計 '08.3 ~ 09.6 (JV) / 横浜山下町地区 B1 街区施設建築物工事監理 '08.2 ~ 10.4 (JV)



■建築設計

香山アブルJVの設計チーム(香山寿夫・大野秀敏中心)に対して、神奈川県立芸術劇場・NHK横浜放送会館+旧山下居留地48番館の保存建物の建築設計全般のサポートを行い、1883(明治16)年築とされる横浜居留遺構である旧48番館の保存改修を担当した。



本町通り側の夜景



旧48番館通り半屋外カフェ予定地



保存改修された旧48番館

■歴史的遺構の保存展示設計

## 旧横浜居留地48番館

Former YOKOHAMA Settlement No.48 Building

**■現存する横浜最古の煉瓦造り建築**

旧横浜居留地48番館は、調査の結果、明治16年(1883年)に建設されたモリソン商会の建物の遺構で、現存する横浜最古の煉瓦造建物であることが分かりました。平成13年(2001年)には建築的・歴史的価値の重要性から神奈川県指定重要文化財に指定されています。

明治時代の銅版画に描かれている建物は、関東大震災により倒壊し、2階西側の妻壁と一階部分の煉瓦壁のみが残りました。そして震災復興事業の区画整理のなかで建物西側部分は取り壊され、玄関西側部は道路の境界で規模を縮小しています。その後昭和の時代には外国人用住宅として改修されながら、奇跡的に残ってきたものです。

平成22年(2010年)の改修で、切妻形の金属屋根をガラスに置き換えて採光を良くし、開口部は防火仕様としています。道路上には当初の建物外形線をコンクリート平板の色を変えた部分とアスファルト舗装の磁き目部分で、その範囲を表現しています。

**■発掘調査の成果**

48番地の発掘調査では、幕末から明治・大正時代の建物基礎などの遺構が多数発見されています。48番館の南側では、慶応2年(1866年)の横浜大火で焼けた建物などの瓦礫を産棄した堅穴が発見されています。この堅穴からは赤く焼けた屋根瓦などのほか、西洋皿やジャム瓶・ガラス瓶などの遺物が出土しています。特にイギリス産のタイルは、少数ですが複数の種類が認められます。

**山下居留地** Remains of Yamashita Foreign Settlement  
山下遺構発掘遺跡  
아미사타(山下)거주지 유적

旧横浜居留地48番館の位置図

モリソン商会 横浜(1883年)  
(日本橋区大目4丁目) 横浜地産煉瓦社製 煉瓦

銅版転写タイル  
150mm(5.91inch)×120mm(4.72inch)

銅版転写発汗陶器皿  
直径270mm(10.63inch)×高さ40mm(1.57inch)

旧横浜居留地48番館説明パネル



旧48番館の内部とガラス屋根



遺構復元展示と説明パネル(夜景)



旧コッキング商会敷地から出土したレンガ塊

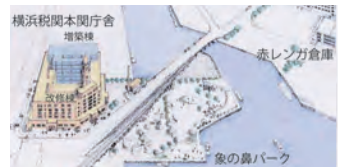
語元 発注: UR 都市機構神奈川地域支社 所在地: 横浜市中区山下町 構造: S造+RC造+SRC造 階数: 地下1階地上10階 建築面積: 4,878.63㎡ 延床面積: 20,307.63㎡ 意匠: 香山・アブル総合・アブルデザイン設計共同体 構造: MUSA研究所、構造計画研究所 設備: 森村設計 音響: 永田音響設計 照明: LPA 遺構展示意見交換会: 山下居留地遺跡の価値を考える会、かながわ考古学財団、学識者ほか 担当: 中野、萩原、加藤、池田、佐々木、柴田

横浜の歴史を刻む税関庁舎、その塔は「クイーン」の愛称で親しまれる港ヨコハマのシンボルであり、その歴史的建物の保存・増築の設計者選定の公開プロポーザルコンペに参加、結果として特定され、設計に関わったものである。コンペは2人の建築家（香山壽夫・大野秀敏両氏）と都市デザイナー（中野）の3人の協同によって、従来の建物の1.5倍の規模の増築という条件の中で、歴史的建物の外観を保存する都市デザイン的アプローチの提案が高く評価された。

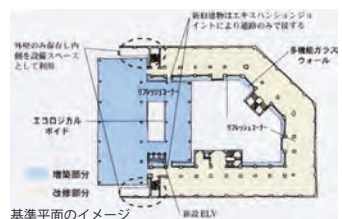
とりわけ都市デザイン的アプローチとしては、横浜発祥の港・象の鼻や周囲からの景観への配慮、そして増築部の高さ、位置、残すべき外観等について、早い段階で条件付けなどを行ったことで、設計方針がより明確化できたことが、保存修復と増築の調整がスムーズに図れたと思われる。計画案は口の字の旧庁舎の西側を解体し、そこに新築棟を建設するとともに残りのコの字の旧建物の保存改修を実現した。実施設計段階は両建築家に委ねた形となったが、監理段階までJVとして関わった。



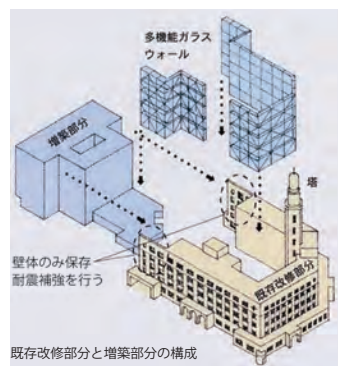
改修後の横浜税関本関庁舎



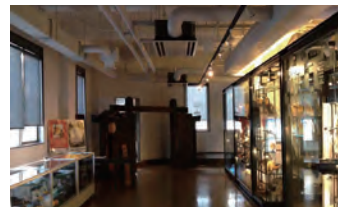
赤レンガ倉庫・象の鼻パークと税関庁舎の関係



基準平面のイメージ



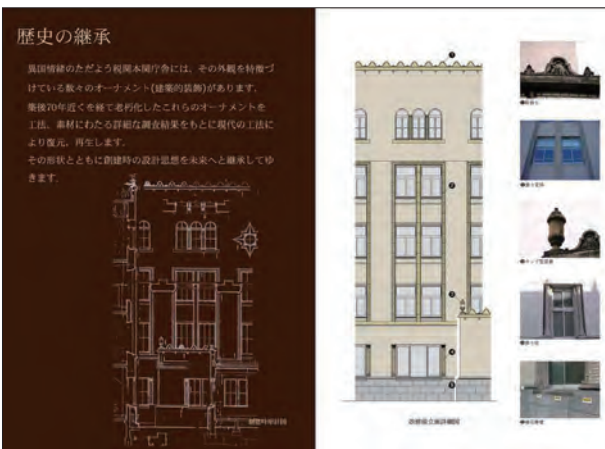
既存改修部分と増築部分の構成



税関展示室の内部空間



新旧の対比



歴史の継承

経緯 横浜税関本関庁舎設計・設計者選定プロポーザル'00.6 / 横浜税関本関設計'00.7 ~ 03.10 / 横浜税関本関工事監理'01.7 ~ 03.10  
 諸元 発注: 国土交通省関東地方整備局 所在地: 横浜市中区海岸通 構造: 増築部1-S造、一部SRC造 [改修部]SRC造 階数: 地上7階、塔屋5階 敷地面積: 7,202.7㎡ 建築面積: 4,024.16㎡ 延床面積: 15,955.32㎡ 用途: 税関事務庁舎 原設計: 大蔵省営繕管財局(大熊喜邦)、原施工: 戸田組 改修設計: 香山壽夫建築研究所 + 大野秀敏 + アプル総合計画事務所 構造: MUSA 研究所 設備: 森村設計 造園: エキープ・エスバス 設計期間: '00.7~'01.2 施工期間: '01.3~'03.7 担当: 大野、中野、郷田、萩尾、粕谷、加藤、金子



## 新潟駅駅舎・駅前広場

### ■新潟駅駅舎・駅前広場設計(南口広場・万代広場)

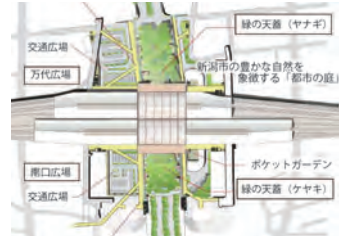
[新潟市・JR 東日本] 2003-2014

#### ■設計プロポーザル 最優秀賞 4社JV

プロポーザルは「新潟県民・市民に親しまれ後世に誇れる「新潟駅 駅舎・駅前広場」の整備を図るため、広く専門家に呼びかけ優れた提案を受けるとともに、県民・市民の思いが活かされた計画案を選定すること」を目的に行われ、アプルは1次通過者の堀越氏からの要請で、都市計画担当として参画、4社共同体系を作成、市民参加を取り入れた公開による最終審査によって、最優秀賞に選定された。キーワードは人・交通・自然が気持ちよく循環する「都市の庭」であった。

<共同構成員>

(責任者・建築担当): 堀越英嗣/㈱アーキテクト・ファイブ(a5)  
(副責任者・都市計画担当): 中野恒明/㈱アプル総合計画事務所(apl)  
(ランドスケープ担当): 佐々木業二/風コンサルタント(風)(OC)  
(土木担当): 荻原武治/パシフィックコンサルタンツ(風)(PCKC)



コンセプト案平面図

#### ■新潟駅・駅前広場等計画(基本設計) 4社JV

新潟駅駅舎駅前広場プロポーザルを受け、南北駅前広場(万代広場:約17,000㎡、南口広場:14,000㎡)および関連街路の基本計画・基本設計作業を4社JV(代表:堀越英嗣-a5/apl/OC/PCKC)で取りまとめた。具体的な計画案策定に際しては、「市民の思い」を反映すべく、地元のNPOまちづくり学校とも連携し、市民参加型のワークショップ方式で進められ、中野は副責任者として、前提条件の整理～基本計画のとりまとめ、基本設計の各社間のコーディネート役を担った。



基本設計案模型写真

#### ■新潟駅南口広場 実施設計～意匠監理・駅舎接続施設デザイン監修

南口広場は2008年新潟国体の主要ゲートとなるべく弁天線(南口駅前通り)、ペデストリアンデッキも含め実施設計を担当した。駅前広場に関しては基本設計と同様に4社JV体制とし、アプルは全体を統括しながら風コンサルタンツと協働で歩行者空間の設計を担当した。ペデストリアンデッキは、パシフィックコンサルタンツの設計に対し、堀越英嗣氏とともにデザイン監修を行った。

基本設計と同様、並行して市民参加型のワークショップを開催し、市民意見を具体的に設計に反映させている。ワークショップでは駅前広場中央の歩行者広場の具体的な利用方法から市民による維持管理の仕組みづくりまで広く議論が行われ、新潟市広場条例の改正により、自由にイベント等の開催が可能である。



南口広場平面図



弁天線側よりみた南口広場

諸元 所在地:新潟市花園1ほか 新潟駅南口広場 面積:約14,000㎡、バスターミナル:約2,800㎡、タクシー停留所:約560㎡、歩道:約5,100㎡、歩行者広場:約1,350㎡、自家用車駐車場:約1,000㎡/万代広場:約17,000㎡、バスターミナル:約3,400㎡、タクシー停留所:約840㎡、歩道:約3,000㎡、歩行者広場:約5,500㎡、自家用車駐車場:約1,900㎡



夜のイベント風景



ペDESTリアンデッキ



エキナフェスタのオープンカフェ



アルブレックス新潟応援パブリックビューイング

市民参加の軌跡①		
平成13年度 新潟駅前広場基本設計における市民参加ワークショップ	平成13年度 新潟駅南口広場実施設計ワークショップ	平成14年度 市民による新潟駅南口広場の活用計画づくりワークショップ
<p>このワークショップは、市民参加による広場の基本設計の重要な役割を担った。市民参加ワークショップ「市民参加ワークショップ」を通じて、市民参加による広場の基本設計を実現した。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p> <p>このワークショップでは、市民参加による広場の基本設計を実現することである。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p> <p>市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p> <p>市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p>	<p>市民参加ワークショップ「市民参加ワークショップ」を通じて、市民参加による広場の基本設計を実現した。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p> <p>市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p> <p>市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p> <p>市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p>	<p>市民参加ワークショップ「市民参加ワークショップ」を通じて、市民参加による広場の基本設計を実現した。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p> <p>市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p> <p>市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p> <p>市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。市民参加ワークショップの目的は、市民参加による広場の基本設計を実現することである。</p>

NPO新潟まづくり学校による市民参加ワークショップの記録集より

経緯 新潟駅駅前広場設計①「サ」'03.12 / 新潟駅周辺整備拠点形成検討調査関連業務 '03.7～'04.3 駅都心みらい推進機構（新潟市）/ 新潟駅駅前広場等計画作成業務 '04.8～'05.3 新潟市 / 3・2・505 弁天線（新潟駅南口広場）実施設計・意匠監理 '05.8～'07.3 / 新潟駅南口駅舎接続施設詳細設計にかかるデザイン監修業務・協力 '06.11～'07.3 パソナ・コカ・コーポラティブ（新潟市）/ JR 東日本上信越工事事務所 / 新潟駅南口広場街路事業に伴う新潟駅南口駅舎接続施設新設工事意匠監理 '08.6～'09.2 新潟市 / 新潟駅万代広場等基本計画作成 '11.6～'12.2 新潟市 / 新潟駅万代広場等整備計画策定 '12.7～'13.3 新潟市 / 新潟駅部における歩行者施設計画検討 '13.10～'14.3 新潟市 以上(株)堀越英嗣 ARCHITECTS(ほか) JV / 新潟駅駅舎実施設計デザイン監修・協力 (株)堀越英嗣 ARCHITECTS(株式会社) / 17-東日本建築設計事務所 / JR 東日本上信越工事事務所 / '14.1～6

担当：中野、岩村、加藤、池田、笠間、田邊、田澤、長谷川、大木

# 東御市行政中心ゾーン(舞台が丘地区)リノベーション計画

■舞台が丘構想・市庁舎改修・新図書館・中央公民館等設計

[東御市] 2009-13

東御市(長野県)の市庁舎等公共施設群の集中する「舞台が丘地区」の再整備のための公開プロポーザルにより特定された。プログラムとして、現市庁舎本館の改修と一部増築(庁舎・新図書館)と中庭を巡る回廊を新設することで、既存施設群の有機的連携を図る(第Ⅰ期)。旧図書館・中央公民館改修により、子育て支援施設と公民館機能の充実、市民のイベント広場整備(第Ⅱ期)とし、基本実施設計・監理を経て、2014年春完成を見た。



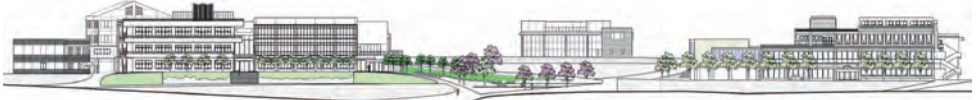
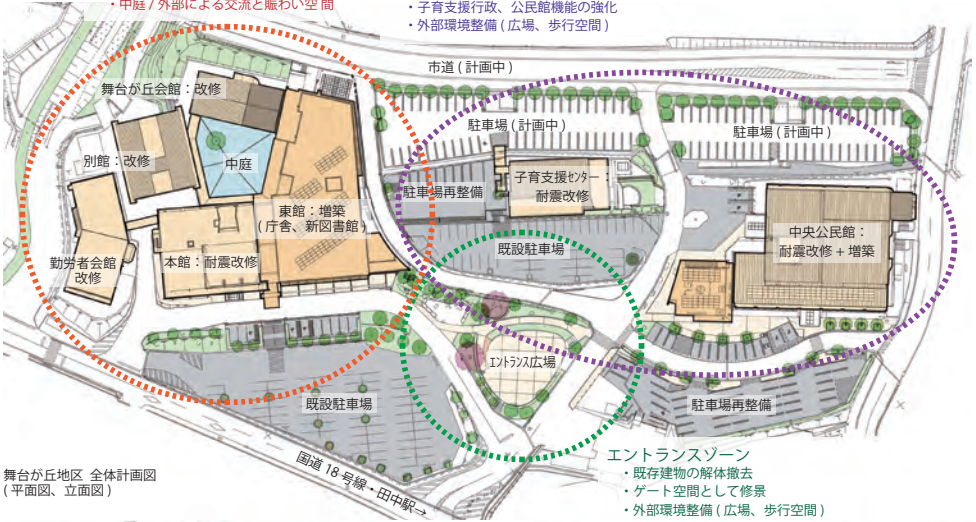
エントランス広場から中央公民館を望む\*

### 西街区:行政・文化ゾーン

- ・庁舎・新図書館
- ・増築棟と回廊で既存施設を一体化
- ・中庭/外部による交流と賑わい空間

### 東街区:市民交流ゾーン

- ・子育て支援センター・中央公民館
- ・子育て支援行政、公民館機能の強化
- ・外部環境整備(広場、歩行空間)



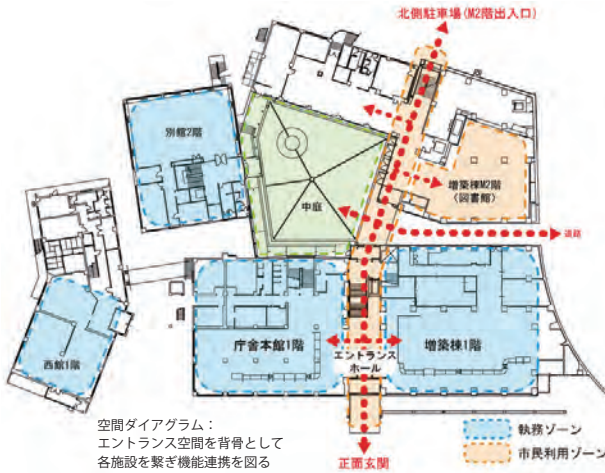
## ■東御市役所本庁舎増改築(図書館合築)基本・実施設計(第Ⅰ期)



改修後 庁舎南側全景 本館(既存)東側に増築\*

改修前

経緯 東御市舞台が丘再開発基本構想09.8~11 / 東御市役所本庁舎増改築(図書館合築)基本設計'10.3~7 / 東御市役所本庁舎増改築(図書館合築)実施設計'10.9~11.3 / 舞台が丘整備実施設計'11.4~12.3 / 東御市庁舎等増改築工事監理'11.4~12.8 / 勤労者会館改修工事監理'12.8~13.3 / 中央公民館講義室増築設計'12.10~12 / 場内整備実施設計'12.10~14.3 / 子育て支援センター工事監理'12.10~13.5 / 中央公民館改修工事監理'13.4~14.3



改修前 庁舎間を繋ぐ渡廊下



改修後 回廊に付替中庭を整備\*



図書館3階一般開架閲覧室 閲覧コーナーから南側の眺望を見通す\*



市庁舎エントランスコリドー\*

### ■舞台が丘整備基本・実施設計 (第II期)



中央公民館 (耐震改修+増築+駐車場再整備)\*

諸元 所在地：長野県東御市 Ⅰ期工事 敷地面積：22,879.0㎡ 延床面積：9,655.6㎡ 新庁舎・新図書館：SRC造地下1階・地上3階4,031.6㎡/中庭回廊：S造地上1階83.98㎡/庁舎本館：RC造地下1階・地上3階(改修)2499.6㎡/庁舎別館：S造地上4階1597.6㎡/舞台が丘会館：RC造地上2階649.1㎡ 協力：ピー・ファーム(構造)総合設備計画(設備)フジキ積算(積算)近田玲子デザイン事務所(照明デザイン) 施工：竹中工務店/Ⅱ期工事、勤労者会館：RC造地上2階872.20㎡/子育て支援センター：S造地上2階775.62㎡/中央公民館：RC造一部S造地上3階(改修+増築)3,543.33㎡/エントランス広場930㎡/中央公民館駐車場2,210㎡/子育て支援センター-駐車場670㎡ 協力：関建築+まち研究室(意匠)、A&A構造研究所(構造)総合設備計画(設備)近田玲子デザイン事務所(照明デザイン) 施工：竹中工務店、竹花組、信州電気、アイビー・イビંગ、竹花工業/撮影：\*北嶋俊治



中央公民館2階市民ラウンジ\*



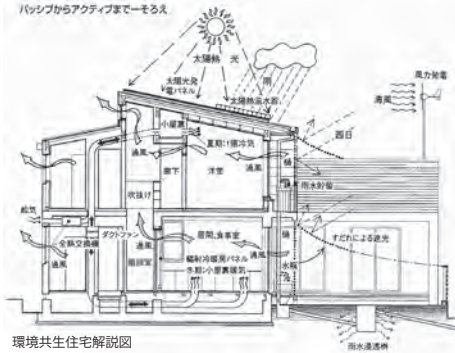
中央公民館増築棟(夕景)\*

担当：中野、萩原、清水、佐々木、空間、大木、中山、長谷川



テレビ朝日「素敵な宇宙船地球号」特集・エコ住宅に住みたいタイトルバック 2000.5.7

パッシブからアクティブまで一そろえ



環境共生住宅解説図

環境共生型すまいの実践

- (竣工時)
- ・夏季のすだれ(日射遮蔽)
- ・自然通風・通気(海風)
- ・高气密高断熱
- ・輻射冷暖房
- ・屋上緑化
- ・太陽光発電
- ・風力発電
- ・雨水貯留・浸透



街角側の外観



内観(居間)



屋上の芝生と植栽(DIY施工)

諸元 所在地: 千葉県浦安市・地域地区・第一種住居地域、敷地面積 175.3㎡、延床面積 156.09㎡、構造・階造・RC+木造混構造、施工・岡本工務店、他(分離発注)、竣工・1997.8、構造・松本構造設計室(松本年史)、設備設計協力・遠藤二夫・若松宏、掲載:日経7-キマガ7 5-3 1999 受賞・千葉県建築文化賞 1999年環境部門賞 担当:中野、吉田、郷田

■東日本大震災液状化被災地域の復旧・支援活動

自身も被災した専門家



右上: 自身の被害を説明する本野哲也氏 左上: 中野氏の自宅、1階RC造・2階木造の複合構造。1階が比較的被害が少なかったため、開戸より被害が大きい。右下: 被災直後の撮影の様子 右中: 復旧ワッドデッキを落下させたままに放置の電線架台

日経7-キマガ7 4-22 2011 掲載

街区中の全戸が不同沈下

(被災直後調査の一例)

元高	0.07%	0.08%	0.09%	0.10%	0.11%	0.12%
1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
0.07%	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
0.08%	0.00%	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
0.09%	0.00%	0.00%	1.000	1.000	1.000	1.000
0.10%	0.00%	0.00%	0.00%	1.000	1.000	1.000
0.11%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.000	1.000
0.12%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.000

アブル総合計画事務所 (千葉県浦安市)

「環境共生住宅」で被災しわかったこと

防災住宅の先行例でポイントは何?

インフラ断絶にどう備える

日経ホームビルダー 2011.6 掲載

復旧支援経緯:被災翌日から近隣被災状況調査を実施(後に研究室学生も協力)、1週間後に被災住民向け沈下修正工法等情報提供、自治会ボランティアの傍ら、専門雑誌・学会等に寄稿、自邸沈下修正工事を5月9日(恩田組)、以後NPO 浦安液状化復旧相談室に参加、同副代表、活動継続中